

令和5年度 和歌山大学大学院教育学研究科専門職学位課程（教職大学院）

第一次入学試験問題・解答用紙 [小論文] (2枚の内の1)

受験番号	
------	--

コース：特別支援教育コース

※

次の平成29年3月告示小学校学習指導要領（第1章 総則 第4 児童の発達の支援）（一部抜粋）を読んで、以下の問題について記述しなさい。

「障害のある児童などについては、家庭、地域及び医療や福祉、保健、労働等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で児童への教育的支援を行うために、個別の教育支援計画を作成し活用することに努めるとともに、各教科等の指導に当たって、個々の児童の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めるものとする。特に、特別支援学級に在籍する児童や通級による指導を受ける児童については、個々の児童の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用するものとする。」

問題

個別の指導計画と個別の教育支援計画について、両計画の違いや、それぞれの計画を作成し活用する利点と問題について具体的に記述しなさい（小学校でも中学校でもよい）。

解答

(足りない場合は次ページを使って記述しなさい)

【出題の意図】

教育、医療、福祉、労働等の関係機関が連携・協力を図り、障害のある児童生徒の生涯にわたる継続的な支援体制を整え、それぞれの年代における児童の望ましい成長を促すため、個別の支援計画を作成することが示された。この個別の支援計画のうち、幼児児童生徒に対して、教育機関が中心となって作成するものを、個別の教育支援計画という。願い、障害による困難な状況、支援の内容、生育歴、相談歴など、子供に関する事項について、本人・保護者も含めた医療、福祉、労働等の関係者で情報共有するためのツールである。

一方、個別の指導計画とは、個々の児童の実態に応じて適切な指導を行うために学校で作成されるものである。個別の指導計画は、教育課程を具体化し、障害のある児童生徒一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものである。個別の指導計画には、課題、指導目標、指導内容、指導方法、指導の結果などが、整理されて明示されるため、学級担任、教科担当や引き継いだ次の担当にも、指導の経過が把握でき、児童生徒に対する計画的・継続的な指導が可能になる。そのためにも、個別の指導計画は、子供の指導に関わる人全てが読んで分かるように記載する必要がある。

上記の個別の教育支援計画と個別の指導計画の目的や役割を踏まえ、それぞれの計画を作成する際の問題点やメリットについて、具体的な事例を挙げながら説明することが期待される。